

感染制御薬理学特論

[講義] 1年・2年 選択 30時間 2単位

《担当者名》○塚本 容子[yokot88@hoku-iryu-u.ac.jp]
山田 拓[yamada_k@hoku-iryu-u.ac.jp]
大久保 利成(非)

【概要】

感染予防・管理に必要な洗浄・消毒・滅菌やファシリティマネジメントに関する知識について学ぶとともに、抗菌薬の基礎について学習する。多剤耐性菌予防のための我が国のアクションプランを理解し、Antimicrobial Stewardship Team (AST)の役割及び実際の活動について検討する

【学修目標】

- 1) 洗浄・消毒・滅菌と医療廃棄物に関する原理・原則、そして現場における実際について理解する
- 2) 消毒薬の適正使用について説明できる
- 3) 医療環境と感染症の発生リスク関係について理解し、その対策を説明できる
- 4) 抗菌薬の佐用について理解し、適正な抗菌薬使用について理解できる
- 5) 多剤耐性菌予防のための、抗菌薬の適正使用を推進するためのストラテジーを検討できる
- 6) Problem Based Learning (PBL) を用いた、抗菌薬使用に関する事例を使用原則に基づき、検討できる

【学習の進め方】

すべてのテーマに置いて、事前の学習課題を提示する。実際の授業では、事前の学習課題のディスカッションを中心に進めることでアクティブラーニングを推進する

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	洗浄・消毒・滅菌及びファシリティマネジメント概論	洗浄・消毒・滅菌とファシリティマネジメントについての概要	塚本
2・3	洗浄・消毒・滅菌の原理・原則	1) 洗浄・消毒の原則 2) 滅菌の原則と滅菌物の取り扱い	山田
4・5	洗浄・消毒・滅菌の原理原則に基づいた、臨床現場での実際	1) リコールシステム・滅菌保証など事例検討 2) 近年問題となっている内視鏡の滅菌保証における課題について文献検討	原理加(特別講師)、塚本
6・7	消毒薬の適正使用に関して	1) 微生物の消毒薬抵抗性の強さ 2) 消毒薬の抗微生物スペクトル 3) 生体消毒と環境消毒	大久保、塚本
8・9	医療環境と感染症	1) 医療環境(環境衛生)と感染症の発生リスク 2) 環境衛生ワイプとその評価 3) Novel Technology: 紫外線(UVC)の活用	塚本
10) 12	抗菌薬の作用機序と使用原則	1) 抗菌薬の種類とその作用機序 2) 抗菌薬の使用原則 3) 薬剤耐性獲得のメカニズム	大久保、塚本
13・14	多剤耐性微生物発生予防のための適正な抗菌薬使用推進のストラテジー	1) 臨床現場における薬剤耐性微生物サーベイランスの実際 2) 日本政府の打ち出した薬剤耐性(AMR)アクションプランの理解と実際 3) ASTの役割及び実際の活動	大久保、塚本
15	PBLを用いた、抗菌薬使用に関する事例検討	抗菌薬使用について、1事例を取り上げ、PBLにて検討	大久保、塚本

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

抗菌薬適正使用に関する課題レポート(40%)、プレゼンテーションとディスカッション(60%)

【教科書】

資料を配付する

【参考書】

随時提示する

【学修の準備】

事前の学習課題を課すので、講義前に準備しておくこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。